

イベント企画の見直し

SKP 事務局

1. はじめに

高齢化が進む桜台自治会において、自治会最大の行事として実施してきた夏祭りや秋のフェスティバルは、準備や実施において多大な労力を要することから、第2回のアンケートでその在り方について、会員の約半数の人から検討の必要があるという意見を寄せていただきました。ここではイベント企画の見直しについて検討を進めたい。

2. 第2回アンケート結果

2.1 質問に対する回答

項目	YES	NO
桜台最大のイベント、夏祭りの盆踊りは今まで通りの規模で続けたほうが良いと思っていますか。	327	476
夏祭りの子供神輿は今後も続けるべきだと思っていますか。	409	392
フェスティバルは規模の縮小等見直しをしたほうが良いと思っていますか。	571	214
夏祭りやフェスティバル等のイベントの見直しや企画をするボランティアを募集したら参加したいと思っていますか。	116	688

全世帯数1204 回答世帯816

2.2 寄せられた意見

コロナ禍で自治会活動が大幅に削減されていますが、特に不便を感じません。これからもずっとこのままでいいのではないのでしょうか。

高齢化に伴い、すべての面で検討していただきたいです。特に夏祭り、どれぐらいの人が参加しているのでしょうか。子供たちも減少してきています。あれだけの大変な準備に対し参加者の人数はどうなっているのでしょうか。

フェスティバルも聞くところによると、毎回同じメンバーが集うフェスティバルになっているとのことです。

行事は参加したい人だけが参加するものにしていただきたいです。

イベントや活動を簡素・縮小してほしいです。そうすればそれにかかる準備・後片付けも楽になると思います。桜台の住民である以上最低限のお手伝い等できることは続けていきたいと思っています。家族に介護認定者がいると家を空けることはできません。毎日が自分の家のことで精いっぱいの方がいます。できるだけ協力はさせていただきますが、よろしくお願いします。

<p>年寄りや自治会のイベントに参加するメリットが少ないので、逆に会費を下げて自治会脱会を防ぐようにしなければならないと思う。会費を上げると脱会する人は増えません。また年寄りの孤立を防ぐことも考えてほしい。会費免除をするなら、免除規定を作るべき。</p>
<p>NO.15 ①専門部活動を縮小した場合、自治会の目的達成はできますか。部会で一番忙しいのは祭りの準備ですが、これをやめて別の方法で考えるとしたら、今と同じ労力でその部にあった活動がもっとできると思います。</p>
<p>NO.11 子供が少なくなってきたが、少ないながらも子供達には、幼いころの桜台での思い出として、お祭り等は残すべきだと思う。</p>
<p>専門部会やイベントの縮小見直しを図り無理のないものにする。</p>
<p>夏祭りも若い人や子供たちが減ってきているので見直す時期に来ている。</p>
<p>NO.11 夏祭り、規模は世情に合わせて都度調整するも、常設NPO 実行委員会とし、町おこしの一環とする。市、自治会、協賛会社より支援を受ける。</p>
<p>NO.12 子供神輿、子供員数確保可能なら継続すべき。</p>
<p>NO.13 フェスティバル、趣味の傾向によれば拡大もありうる。</p>
<p>NO.14 イベント・ボランティアは状況改善次第で参加もありうる。</p>
<p>夏祭りはボランティアへの過度な挨拶や接待などをしないといけない風土を変えるべき。</p>
<p>桜祭りは企画が大きくなりすぎてきているので縮小化を図るべきです。自治会から20万円の出費は大きい。</p>
<p>夏祭りは高齢化、異常気象、夏祭り本番3日前からの準備など、負担が大きすぎます。コロナが終息し祭りができるようになったら夏祭りの簡素化を進めてほしい。</p>
<p>夏祭りやイベントをなくして、その分を公園の維持管理費に充ててほしい。</p>
<p>祭り関係の無駄をなくせば公園愛護活動協力金がなくなっても、問題ないでしょう。</p>
<p>祭りは一部の祭りが好きな方々のものになっている感じがします。夏祭りのやぐらの周りで踊っているのは桜台以外の人が多い。景品は抽選時その場にはいないともらえないのはおかしい。</p>
<p>子供神輿は規模を縮小しても続けてほしい。</p>
<p>フェスティバルでは炊き出しの係になったが意味のあるようには思えませんでした。被災時に自治会で炊き出しは無理だと思います。お米や燃料はどうするのですか。カレーやお汁粉は希望者全員に行きわたらず涙でした。</p>
<p>桜祭りはいつの間にか桜台自治会の主催のようになっている。他の自治会や団体から寄付をもらい、自治会の予算にも計上されている。あやふやな感じです。</p>

当然ながら高齢化が進む中で、生活環境を変える又は、不便性を受け入れて生活するのはあたり前の事。よって自治会の活動は、無理のない、必要最小限の活動にシフトするしかないと思います。・何でもボランティアでは出来ません。有志で出来る事を選択して下さい。コロナ禍、無理をする必要は、ありません。・各自の生活は、周囲の迷惑のかからない様に心がけましょう！ ⇒必要最小限の事を自治会運営で。夏祭りやイベントは有志で。手間のかかることはやめましょう。

3. アンケート結果からわかること

- (1) 多くの会員は、イベント規模の縮小を希望している。
- (2) 会員の多くは、見直し要望が多数である。
- (3) イベントを盛り上げていこうという意見が圧倒的に少ない。
- (4) イベント見直しやイベント企画に参加してもいいという世帯が116世帯もあるということは、現専門部のイベント企画部に代わって、ボランティアでイベントを企画し実施できる可能性があるということは注目に値する。

4. イベント開催の目的と評価

イベント開催の目的は、自治会の総意に基づいて、自治会役員が一致団結し、夏祭りやフェスティバルを企画し開催することで、親睦を図り“ふるさと意識”の向上を図る、とされてきた。

イベントは会員にとって大きな楽しみだったし、地区の繁栄や元気の象徴として、会員の親睦や交流に大いに寄与してきた。

一方、桜台に生まれ育っていった子供たちにとって、桜台は”ふるさと”として記憶に残してくれたであろうか。”ふるさとづくり”は道半ばのような気がする。

5. 会則の規定からのイベント見直し改善の制約

第14条(専門部会) 自治会の業務を円滑に執行するため、専門部会を設けることが出来る。専門部の設置及び廃止は本部役員会の権限とする。

- (1) 専門部会を設置するに当たっては、本部役員会はその専門部等の業務範囲を明確に定めなければならない。
- (2) 専門部は理事及び班長で構成し、定員は別途定める。
- (3) 専門部を構成する理事の中から、部長1名及び副部長1～2名を選出する。理事の中から副部長を選出できない場合は、班長の中から選出するものとする。
- (4) 専門部会は定められた業務を的確に執行するものとする。

専門部会は本部役員会の権限で動くように規定されており、イベントの見直しは定期総会の承認を必要としない。イベント改善の制約はない。

6. イベントを取り巻く状況と対応

夏祭り、フェスティバルは、桜台自治会の歴史の中で、会員の総意に基づき企画され会員の献身的な協力のもと開催されてきた。その活動は専門部活動の中心として継続的に引き継がれてきた。その陰にはイベント企画部を中心に理事、班長等の役員の労力を厭わない取り組みがあった。

しかしながら、これからも同じような規模でイベントを継続するには、高齢化が進む自治会の体制では無理が生じてきている。

アンケートが示すように、これからは無理をせず、身の丈に合ったイベントを無理しないでやっていくべきという意見が多い中、舞台やテント張り等力仕事の準備を外注すれば盆踊りをやることは可能だという意見がある。外注までしてやる価値があるのかは別にして。

イベント企画準備の中心となるべき若手が地域に育っていないこと、会員の約半数がイベントの開催に疑問をもっており、コロナ禍の影響でイベント開催ができなかった期間が、イベントの継続に冷静な判断を求めている。

ここでは、継続の前提に立ってその方法を検討するだけでなく、必要かどうかゼロ発想で検討を進めていきたい。

6. 今後の、夏祭り、フェスティバル等イベントはどうしたらいいか

今までの“ふるさとづくり”は道半ばであると述べたが、新興団地の1世代だけの活動では“ふるさと創生”は至難と言わざるを得ない。子孫が継続してこの地区に住んで、初めて“ふるさと”が見えてくるのではないだろうか。

“ふるさとづくり”をイベント開催の目的とし、“ふるさと意識”向上を目指し、併せて会員の親睦を図るとするならば、今まで親睦は十分に図られてきているし今後も同程度の親睦の継続は可能と思われる。

今後は、高齢者の親睦目的ではなく、子供たちのために”ふるさとづくり”を推進する中で、イベントを企画し、子供たちの父兄を巻き込んだイベントにしたらいのではという意見がある。

高齢化が進み子供たちが少なくなって心配された時期もあったが、桜台にも若い人たちが増えてきている。この若い世代を自治会に引き込むためにも、イベントは子供たちの”ふるさとづくり”を中心に企画され実施したらどうだろうか。

シニアと若い世代が一緒になって子供たちのために企画し準備する。子供たちの元気な姿と嬌声の中でシニアも一緒に遊び喜び合う、こんなイベントはないものだろうか。

余力があったら熟年の会員のための親睦のイベントも同時開催で大いに企画すべきだと思う。

7. イベントの形

7.1 従来型の夏祭りやフェスティバルの踏襲

班長理事選任の輪番制がかりうじて維持されているここ数年は、準備作業の一部を外注化すれば、従来型のイベントの継続は可能であるが、アンケートでは中止よりも準備に

労力がかからない簡素化が望まれ、誰でも参加できるイベントを望んでいる。

イベント企画には、掛ける労力対効果が強く求められている。

しかしながら、コロナ感染が終息したら、夏祭り会場の力仕事はすべて外注してでも従来型の夏祭りをやってみようという一部会員の声もあり、一度実施後新しい簡素化されたイベントを検討する案も考えられる。

7.2 新たな形のイベントの提案

SKP は費用・労力対効果、子供中心、ふるさとづくり、チャリティ等を踏まえた新たなイベントを以下のように提案する。

7.2.1 夏祭り

(1) 盆踊り

- ① 会場を中央グラウンドからテニスコートや自治会館および周辺のスペースに移して、盆踊り等の舞台は小さなものにする。
- ② 来賓や踊り、歌などの支援団体は呼ばない。一般参加は近隣自治会員なら OK とする。
- ③ 有志や会員、専門部、ボランティア等の屋台、バザー、子供たちのための遊びや金魚すくい、綿あめなど出店、プロの営業は桜台や近隣自治会の業者のみ。
- ④ 子供太鼓はやる。
- ⑤ 子供のダンスやフォークダンスなどもいい。
- ⑥ 休憩時間帯にカラオケ大会を入れていい。
- ⑦ くじ引きやビンゴもいい。高額商品を企画。

(2) 子供神輿

今まで通り継続。

7.2.2 フェスティバル

フェスティバルの準備には多大な労力を要すること、大人中心の出し物が多く、一部の人のだけの行事になっているという意見がある。

この意見を受けて、今後のフェスティバルは

- ① 自治会館で行っているサークル活動の発表会は行う。
- ② 準備に時間を掛けない。準備は発表、出演団体、グループから代表者を出す。
- ③ 絵画、書道等の展示は出品者が集まって自分たちで企画、準備。
- ④ 大人だけではなく子供を巻き込んだ出し物を考える。
- ⑤ できるだけ多くの会員に足を運んでもらい鑑賞していただく工夫をする。
- ⑥ 親睦のために飲食コーナー、交流スペースを設ける。
- ⑦ 野菜即売会や蚤の市等も合わせて開会も可とする。

を基本とする。

今後の具体的企画に対する意見としては

(1) 今までのフェスティバルは、芸術の秋の行事として、自治会館でのお稽古や趣味のサークルの発表会が中心の行事で、子供たちの参加はなかった。若い世代、子供たちの参加も考える。

(2) 開催は2年に1回でもいいと思う。

(3) 子供たちに芸術と食欲の秋の楽しさを味わってもらいたい。その企画が望まれる。

① 絵画コンクール、書道コンクール

フェスティバルの1週間前に、自治会館に集合し、自治会が用意した画用紙と絵具、紙と墨汁で作品を創っていただき、コンクールを行い、フェスティバルで展示する。

a. 絵画、書道のどちらにでも参加できるように日程を調整する。

b. どちらも参加賞を含め、思い出に残る賞状商品を用意する。

c. 大人も子供と同じ条件でコンクールに参加する。幼稚園、小学校、中高、大人の部で競う。

② 子供音楽会

お稽古でピアノや歌を習っている子供たちのための音楽会を、大人のカラオケ大会の前の午前中に行う。

③ 発表会は2階、展示会は1階のホールを使う。

子供の絵画、書道のコンクールの準備は子供の父

④ 子供たちの父兄を巻き込む。

(4) 大人のための企画としては、趣味の成果物の展示会の会場は自治会で用意するが、展示は自分でやる。

(5) カラオケ大会はやるが企画準備は出場者で実施。

(6) その他の企画

募金寄付金の集金は止めて、募金活動として企画できるものもある。

① 蚤の市(不用品の有効活用)

② 食のバザール(子ども食堂、ジジババ食堂)

③ 餅つき大会(炊き出し訓練)(正月餅つき大会の練習)(大人も子供も楽しく)

④ 野菜特売等

⑤ 子供と一緒にケーキ作り

⑥ そば打ち体験と試食会

⑦ 竹細工実習

⑧ 粘土細工コンクール 他

8. 今後の進め方

SKPとは別に、令和5年度のイベント企画のためにイベント企画準備委員会を立ち上げる。

以上